

富山県水墨美術館

来春のオープンに向け、準備着々

「モノクロームの世界に日本人の美意識を感じる」
 近代水墨画の流れを紹介する全国でもユニークな美術館として来春四月二十九日のオープンに向け整備が進められている富山県水墨美術館。建物はすでに完成し、現在は美術品の展示に備え、展示室の乾燥などが行われています。

今、なぜ水墨画か

「優美」「幽玄」「わび・さび」など、日本には、特色ある風土と長い伝統のもと、独特の文化がはぐくまれてきました。

それを支えてきたのは、現実の奥にある形なきものを追求する美意識であり、水墨画は、それが最も如実に表れたものの一つです。しかし今、このような日本人の美意識は、生活様式の変化に伴い、私たちの生活の中から失われようとしています。

富山県水墨美術館は、水墨画をはじめとする日本文化特有の美と語らうことによって、日本人の美意識を再確認する場なのです。

館内をご案内します

みる
 ……〈常設展示「近代水墨画の系譜」〉……
 横山大観、前田青邨など、近代の代表的な作家約二十五名の水墨画を展示します。

……〈常設展示「下保昭作品室」〉……
 日本の画壇で、現在最も注目されている本県出身の日本画家、下保昭の水墨作品を展示します。

……〈展示室1、展示室2〉……
 多彩な日本文化特有の美を鑑賞できるスペースとして、日本画や染織、陶芸などの企画展を開催します。

……〈映像ホール〉……
 大型スクリーンで、水墨画の起源や近代水墨画の系譜などを紹介するハイビジョン映像を放映するほか、講演会やイベントも開催します。

味わう

……〈喫茶「北斗」〉……
 四季折々の食材を用いた和食など、日本の味覚が楽しめます。

……〈茶室「墨光庵」〉……
 本格的数寄屋建築の茶室には、立礼席を設けており、静寂の空間で一服のお茶を楽しめます。

なお、展示室以外は、入場無料のフリースペースです。お気軽にご利用ください。

親しまれる美術館をめざします

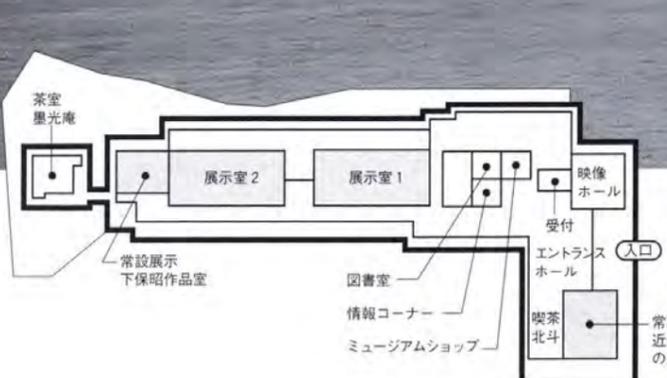
◆友の会会員、ボランティア募集
 十月下旬から募集を開始する予定です。美術館の良き理解者、パトナーとして、皆さんの参加をお待ちしています。

◆提言、要望をお寄せください。
 水墨美術館では、皆さんからのご提言、ご要望をお待ちしています。

「横山大観展」を開催

水墨美術館では、開館記念特別展として、「横山大観展」を開催します。
 会期 来春四月二十九日(祝)～五月三十日(日)

問合せ 富山県水墨美術館
 〒930-0887
 富山市五福777番地
 ☎0764(31)3719
 (さあ-ほに、みない) 3720
 FAX 0764(31)3720



展示室を結ぶ長い廊下

「風神雷神」は豪快に描かれることの多い画題だが、作者は淡墨の滲みや余白によって、軽妙な趣の作品に仕上げている。自在な筆の運びにより、墨の持つ洒脱な一面がよく表現された作品である。



常設展示作品を紹介します
 前田青邨 「風神雷神」

残照に赤く染まった晩秋の高原をシャープな墨線で表現している。画面に漂うしみじみとした東洋的詩観や、薪を背負う人物の後ろ姿には、人生に寄せる作者のあたたかなまなざしが感じられる。



平福百穂 「晩山残照」

◎担当者に聞きました◎

県教育委員会文化課主幹 (新美術館建設担当)
福井文夫

美のありかたは、人々が暮らす風土に大きく影響されます。
 例えば、地中海沿岸の美術は、明るい太陽の下で発達しました。このため、ギリシャ彫刻に見られるように活動的で肉体的な表現が多く、屋外展示が盛んです。

一方、高温多湿の日本の美術は、雨や雪を防ぐためにひさしを長くした家屋の内部で発達しました。薄暗い室内で光を放つ金屏風、蠟燭の明かりの下で輝く蒔絵箱、刻々と変化するかがり火の中で演じられる薪能の能面など、日本の美の根源は闇にあるといえます。

水墨美術館では、こうした日本の美を体験していただくための条件整備に、とことんこだわっています。

屋根のひさはしは五メートルあり、太陽光線を遮るようになっています。また、照明を暗くして蠟燭の光を再現できる展示室や、障子ごしの光で作品を鑑賞できる床の間がある展示室も整備されます。

来春、水墨美術館でたくさんの方々にお会いできますことを楽しみにしております。